



大阪錦画日々新聞紙 第九十三号

城後国長岡表町通り水野金島の手代新渡馬へ主用にて東京  
 發見せし明治八年四月廿三日其日由中 長岡藩の渡邊敷員  
 小出貞治、前貞具知らるや  
 道連とあり浅貝宿の参  
 宿して二十五日の  
 朝の雪中  
 返車  
 側の時計士と金全田外の  
 逃走し新渡馬へ商先の世話  
 渡邊といふ名の長岡の卒をや  
 土役人の着類を盗み 逃云を一族と

兎悪ゆり  
 大雪跡の  
 のもの  
 罪科へ遠  
 からぬ  
 讀  
 九十三  
 号記

大阪錦画日々新聞紙39号 文庫10-8068-30

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

